

2007年度実践賞成果報告

「津波のリスクを地域住民が正しく知るための手法の開発 ―サイエンス・ショップの実現を目指して―」

江戸川大学メディアコミュニケーション学部

北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット 隈本邦彦

津波研究者と地域住民の間のコミュニケーション・ギャップに着目

この研究は、第一線の津波研究者の「津波警報が出てもなぜ住民は逃げてくれないのだろう」「精緻なハザードマップを作っても、それが住民を動かさず、結局タンスの引き出しにしまわれてしまうのはなぜか」というつぶやきからスタートしました。

現実に、津波警報が出ても住民の多くは逃げてくれません。その原因として、自治体の防災意識不足の問題や、住民が陥りやすい「正常化の偏見」など、さまざまな分析がなされていますが、北海道大学科学技術コミュニケーターの養成ユニット（CoSTEP）で科学技術コミュニケーションの教育・実践にかかわってきた立場から、私たちは、津波研究者と地域住民の間のコミュニケーション・ギャップが、その一因となっているのではないかと考えました。

「直接対話」を重視したイベントを設計

そこで、サイエンス・コミュニケーションの分野で注目されている「直接対話による双方向コミュニケーション」の手法を、津波防災の分野に応用してみることを試みました。研究者と住民が対話をする「サイエンス・カフェ」形式のイベントを、実際に津波被害が想定されている地域で開くものです。

従来の津波防災啓蒙活動というのは、基本的には「大会場での講演会」など、いわば研究者側から住民への一方的な情報伝達が主流でした。そこで私たちは、大幅に方向転換をして、「地域の小さな会場で」「研究者を車座にとりかこんで」「質問時間をたっぷりとって」「対話を重視する」というコンセプトのイベントを設計しました。このイベントの設計には、CoSTEPで教育を受けた修了生／受講生たちの「サイエンス・カフェ札幌」*での経験がおおいに活かされました。

またイベントでは、CoSTEP修了生／受講生が、津波について住民はどのような情報を求めているのかということを事前調査した上で、住民の知りたい文脈に沿った情報提供をめざすコンテンツを作り、さらに自らがファシリテータ

一として住民参加型のワークショップも同時に行いました。

北海道豊頃町大津地区での実践

今回、柿内賢信記念賞実践賞の研究助成金を活用して、北海道豊頃町大津地区（2003年十勝沖地震で津波により2名の死者がでた場所）で、2008年6月15日（日）に、「いざ津波！逃げる？逃げない？役立つ情報と避難食づくり」と題したイベントを開催、地域の35名の方々の参加を得ました。

参加者アンケートの結果、イベントや各コンテンツに対して概ね良好な反応が得られました。「この集会に参加したことで津波警報が発表されたときの判断が的確になったと思うか」という問いに対して、回答者の4分の3が「とてもそう思う」と答え、特に自由記述欄には、「このような形式は専門的な事が理解できていい」「少人数の対話式でわかりやすい。いろいろと考えさせられた」という感想をいただきました。4時間半にわたる長丁場のイベントにもかかわらず、ほとんどの参加者に楽しく最後まで参加していただいたことは、こうしたイベントの可能性を感じることができました。

サイエンス・ショップとしての位置づけ

「津波防災」という地域がかかえる問題に、「大学の知」を生かすということで、私たちの活動は、欧米で広がり始めているサイエンス・ショップ的な意味合いがあると考えています。津波の研究者は全国各地におり、津波の危険にさらされている地域は全国に多数あります。そうした意味で、私たちのような実践が波及していけば、大学で行われている研究の一部を、地域住民の要望を意識したものに変えていくきっかけになるのではないかと考えています。

今後の課題と展望

直接対話を重視したこうしたイベントは必然的に少人数イベントとならざるを得ないため、地域社会に大きな影響力を与えていくためには、今後、数多くの同様のイベントが、津波被害が予想される各地で頻繁に開かれなければなりません。あまりお金と手間をかけずに、誰でもどこでも開けるイベントであることも大切です。そこで私たちは、このイベントのノウハウや、イベント内で使用したコンテンツを、全国の自治体の防災関係者が購読している雑誌やWebマガジン等を利用して公開し、開催を呼びかけていく方針です。

さらにこのイベントの最終目標は、地域住民が津波のリスクについて正しく知り、次に津波警報が出たときに適切に情報を判断して適切な行動がとれるようになるということです。ですから、こうしたイベントが開かれた地域でそうした目標が達成されているかどうか、今後、フォローアップ調査をしていかなければならないと考えています。

この研究成果については、2008年11月9日に科学技術社会論学会第7回年次研究大会で発表させていただきました。また研究成果について詳述した論文は、以下のサイトから入手できます。

<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/34804>

※ サイエンス・カフェ札幌の詳細については以下のサイトをご参照ください。

<http://costep.hucc.hokudai.ac.jp/project/cafe/index.php>